

令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年9月21日（木）

地 区 柏木町地区

会 場 柏木町町内会館

<意見交換>

◆市民 柏木4丁目の・・・といいます。3分と言われたら、とつてもじゃないけどしゃべれない。私自身は、目が見えません。これは11年前に突然なりました。ですから、目の最初から見えない人の気持ちも見える人の気持ちも分かります。その中でいろんなことを要望したら、3分じゃほとんどできません、残念ながら。

それで、一つ、ゼロカーボンの話をします。ここの蛍光灯、これは蛍光灯じゃないですか、そうですね。これ、10本もあります。これ、3列ありますから30本です。全部でこれ、40ワットです。LEDですね。こういうことをやっていって、初めて市の予算はそういうところに使われている。

確かに、これは10年に1回ぐらいは取替えをするので、蛍光灯だと、大体1年から2年ぐらいで取り替える。そういうこと考えると、そういうことをいろんなところでやっていく必要があるんだろうと。市役所のところのいろんなところ、図書館だとかですね。そういうところも、どんどん替えることをやっていったらいかがでしょうと思います。

それから、次、私自身は、これ、市からもらっていますけども、1の1という、目が、もう生活できないという具合になっているんですけど、私、自分で健康管理したいなと思って、そういうことを話したら駄目なので、これで止めます。

それから、図書館に私はよく行きます。だって、何も、目が見えないから、新聞もテレビも映画も何も見られません。やれるのは小説を耳で聞くことしかないんです。ところが、それに対する予算はほとんどついていません、市のほうで。これをちょっと考えてもらいたい。

今、ここに、私は機械を持ってきました。これは自分で買いました。娘が買ってくれたんですけど、これ、一つ8万円します。だから、これだとCDを入れて、自分で小説を聞くことができるんです。これは図書館に、平成14年ぐらいに2台です。その2台は、目の見えない人が多くて、次から次へ使う。私も、予約しても、1か月たっても手に入らなかったです。それから、いろんな小説を見るのもお金がありません。そういうところにもう少し予算をつけてもらいたい。

それから、私、柏木町にお家があるんですが、川があります。3本の道があるんですよ、すばらしいです。私、それをいつも利用しています。ただ、道が赤いと、私たちには見えない。見えづらい人たちがすごく多いんです。今、今年も大分つけています。全部をやれなんて言いません。毎年少しずついいから、やってもらいたいなという気持ちの一つあります。地元にも散歩道があります。それから、オランダも同じように自転車道路だとか、人間が歩くところ、そういうのを区別してやっていかないと、実際にはなかなか上手くいかない。

それから、今度は電気自動車の話をしますけど、今の電気自動車は電気だけど、電気の60%ぐらいは火力じゃないですか。というか、原子力発電も入っています。それでなくて、一般論ここで言うと、火力、それから洋上風力、そういうものをこれから先は造ったらいいかと。太陽光パネルがあります。言っでは悪いですけど、太陽光パネルは10年から20年たったら壊れます。そうすると、その後に、ついているパネルのことですけど、重金属はどうするんでしょうか。それらが全部土の中に入って、川へ流れていったら大変です。

だから、私は、お金はないのは分かります。だったら国からもらってくるしかないんです。国の補助金をもっとそういうデザインに、10年や20年、50年、100年後のこと考えて、市長さん、やったらいかがでしょう。

私は、化学、化学をやってきた人間です。レジ袋を作るのは、あれ、重さを比べたら幾らもないんです。だけど、燃やしてしまっても、幾らも出ません。だけど、そういうのは、みんなでやっばり石油は何せ使わないんだという方向でいかないと。市のバスだとか、市で使っている保有車、車ですね、そういうのもどんどん電気だとか、それから、今、トヨタでもってやっていますけど、そういうのだとか。それから、最近聞いた話です、完全固体充電池ができましたね、量産化しています、日本では。どこで量産化しているかということは、まだ言えません、止められています。充電時間がたったの20分です。大体400キロから1,000キロぐらい走れるんです。

○司会 申し訳ありません、質問がちょっと長くなっております。

◆市民 はい、もう止めます。

そういうことでね、もう少し目を広げてみたらいかがでしょうか。以上です。

○司会 まず、ゼロカーボンの関係でお願いします。

◎環境保全課長 環境保全課の櫻井と申します。よろしくお願いいたします。

ご意見をありがとうございます。まず、LED化についてですけども、市の市有施設ですね、こちらのほう、苫小牧市のほうで国の補助金、重点対策加速化事業というんですけども、そこに手を挙げて、採択されて、そういった国の補助金を活用しながら、令和5年から令和9年にかけて徐々にLED化を、市有施設のLED化を進めていっているところです。

それと、同じ補助金を使って、公共施設に太陽光パネルを買ったりということも、これから進めていくところです。まだ、取組を始めたばかりなので、姿はまだ見えていないんですけども、これから徐々にやってく予定になっているところです。

EVだとかですね、そういうのを広めたらいいんじゃないかという話だったんですけども、本州では、暖かいところではEVも有効に活用されるものなんですが、寒冷地だと、どうしても電池、弱い部分がありまして、本当にEVがいいのか、水素自動車がいいのか、それとも、今、開発している水素自体を燃焼させて、それを燃料にして走るものがあるのか、ちょっとその辺の見極めをしながら、2050のゼロカーボンシティに向けて、どういうことが有効なのかということを見極めた上で、国の補助金なんかも活用しながら、そういった取組を徐々に進めていきたいなというふうに考えているところです。

○司会 ありがとうございます。

次、散歩道の関係ですね。

◎緑地公園課長 緑地公園課の小山内と申します。よろしく、どうぞお願いいたします。

今のお話にありました川沿いの散歩道というお話だったんですけど、川沿公園の遊歩道のウッドチップ舗装で、今言われた赤い色で舗装しているところで、あそこについては、全線ウッドチップ舗装を、今、予定で進めているところでございます。

それ以外でも、バリアフリーという観点で再整備をする際に、沿道等々も工事を行ってまいりますので、今後、そういった目の不自由な方も踏まえた上で、歩きやすい沿道というものを考えていきたいと思っております。

私、今、公園なので、公園のことしか、今、話していないですけれども、それ以外でも、道路の部分でも、これは市街地の中心部になりますけれども、バリアフリー基本構想というものがあって、その中でバリアフリー化する道路とか、整備というのも、今までも行ってきておりますので、なかなか全ての道路をこうしたものに当たるといのはなかなか難しいですけれども、少しずつそういった道路を増やしていきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○司会 ありがとうございます。

もう一件ありました図書館における視覚障害者の方への対応というところは、本日、担当が来ておりませんので、この話は担当部署に伝えておきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次にご意見がある方、挙手をお願いします。

一番後ろの方、お願いします。

◆市民 宮の森町内会の・・・です。

いつもいろいろお世話になってはいますが、町内会の問題中心ということでしたけども、学校も町内会に関わり、子供たちが通っているということで、ちょっと学校のことで、ちょうどこのコロナの問題で、換気だとかいろいろ問題になったときに、教育委員会のほうで網戸をつけてくれたと。

残念ながら、この網戸が、僕が聞く範囲では、まだ窓の半分はついていないと。それで、予算もかかるということで、確かに予算のかからないものはないわけで、まだ半分がついていないという話でいたところへ、今年のような、またとんでもない暑さが続くということですね。

北海道の、特に苫小牧の場合は、僕も住んでみて思うんですが、冬はやたらに寒い、夏の暑さというのはそうでもなかったんですけども、この状況が今後もしばらくどんどん続いていくんだらうというふうに思えば、今、全国的にも話題になっている学校にエアコンを設置するという問題で、札幌は、既にもう2年後くらいには全部の小・中学校につける方向でと、予算規模も違いますから、苫小牧もそれと同じふうにはならないと思っておりますけども、建造物で考えると、どういうわけか学校というのは、個人の住宅だとか、役所関係の市内のいろんな建物の中で比較すると、窓の構造でも何でもすごくよくないんですよ。

最近建てる新しい校舎は僕も見ることがないですけども、僕が回ってきた校舎を見ると、みんな窓というのは一重、大体1枚ガラスです。だけど、ここもそうだと思いますけども、改築して

二重ガラスになっている。窓を二重にするだけでも、寒暖の差というのはかなり違ってくるわけですが、そういう意味では、学校というのは、すごく環境のよくない場所というふうに僕は思います。実際に自分がやってきて。

それで、インフルエンザがはやるにしても、僕は当然、はやるような学校だと。集団でいるだけでなく、そういう寒暖の差が激しいところでね、子供たちが勉強している。夏になると、暑いときに窓を開ければ、虫が入ってくるというような状況だとか、雨が降ったら窓を締めなきゃならないというような状況の中でやってきた。

恐らくここにいる皆さんもそういう中でやってきていて、何となくそんなものだというふうに思っていたと思うんです学校というのは。だけど、やっぱりそれではもう駄目だと。どんどんやっぱり本当に子供たちをいい環境で学ばせるのであれば、まず、建物をしっかりするという、学習する環境をしっかりとするという努力を、時間はかかるかもしれないけど、やっぱり目標を立てて、どんどんやっぱりやっていかないと、やっぱり駄目な時代になっているんだと思うんですよ。

ということで、当面はエアコンをつけるというふうな方向での考え方があるのかどうか。それから、冬の暖房なども、本当にもっといい環境でやれるような形になるのか。今後、新しく改築していく学校では、例えば窓だとか、そういう部分の条件をもっとよくするだとかということも考えられているのかどうかという辺りをちょっとお聞きしたいです。

○司会 市長、よろしいですか。

◎市長 今、・・・さんから、今年、いろいろな、初めてですけれども、新聞でも出ていますけれども、取りあえず、来年、移動式クーラーを全ての学校、教室につけるということはもう既に決めて、先般の議会でもそのような考え方はお示しをしております。

過去に、政府のエアコン設置のメニューがあった時代があったんですが、そのときに北海道は、北海道は結構ですという経過があったというのを初めて知りました。今年のようなことを考えたら、子供たちの学ぶ環境、そういうものを、取りあえずは移動式クーラーで、来年は状況を見たいなというふうに思っています。

一方で、全道市長会とか町村会とか、そういうところが北海道に対するエアコン設置の支援メニューを、国に対してもう既に要望をしております。これ、単費、支援メニューがなくて、市の予算だけで全部つけるといったら、物すごく金がかかるんです。

それで、できれば過去は過去として、政府のそういう支援メニューができて、少しでも早く、町村とかは設置数が少ないので、多分つけるというところが多いんでしょうが、やっぱり都市部になりますと、やっぱり設置数、教室の数がすごく多いので、もう一つは、業務用のエアコンはなかなか、来年、札幌はつけると言っていますが、間に合うかどうか非常に心配をしているようでありますので、家庭用のエアコンとは違う業務用のエアコンをつけることになりますので、そうした背景はありますけれども、今、ご指摘のように、子供たちの学ぶ環境というものが、今年のような環境で、子供たちが通学の後、服も替えたり、あるいは授業短縮をしたり、そういうことがないように、あるいは夏休みと冬休みのバランスを変えたほうがいいという意見はもう既に出ておりますので、それぞれの学校の校長が学校運営の責任者でありますので、それぞれの学

校で考えていくことになろうかと思えますけれども、我々、私自身は、教育委員会に対する執行権がゼロ、ただ、予算権と人事権は持っていますので、そういう観点から、できるだけ子供たちの学ぶ環境についてはしっかりと取り組んでいきたいなというふうに思っておりますので、取りあえず、移動式クーラーでどのぐらいの効果があるのか、あるいは効果がないのか、来年の夏、見極めていきたいなと思っています。

○司会 よろしいでしょうか。

次の方。今、マイクをお持ちします。

◆市民 川沿町の・・・です。

昨年も同じようなことを聞いているんですけど、実は、苫小牧の将来にとって、IR、カジノがどうなのかなというふうに思っています。

実は、苫小牧になじみがある作家が、昨年11月に随筆を書いているんですよ。それは、こういう内容です。アメリカ西部のグランドキャニオンを僕と妻で六人で旅行をしたと、その帰りに、ネバダ州にあるラスベガスに2泊泊まったと、ここはダム工事で、結果的に45万のネバダ州公認の世界一の賭博場がラスベガスにあると。

夕方、飛行機を降りてロビーに出ると、空港ロビーは1,000台あるスロットマシンの音でもうわんやわんやということですね。そして、6時にホテルに入っていようと思って、ホテルには特には何もないと、外で飲んでくださいと、酒は無料ですと。そういうことで、スロットマシンですが、機械のほうがあるんですけども、みんな楽しそうにやっているので、自分もやってみたと。ところが、瞬く間に3万円を取られちゃったということですよ。

10時頃にホテルに向かおうって、まちは光と音と人混みで、ラスベガスがこれから昼間なんだということになるんですけど、ホテルの噴水や音楽に合わせて、黒い夜風に色は枯れつつも踊るように飛び上がる。どのホテルの横にも世界中の高級車、家が並んでいると。ホテルは皆、1階は広大な賭博場であると。

これ、次の朝、空は明るく晴れていたと、10時にホテルを出ると、空港へ歩くまちはまだ眠りの中で、物音はなかったけど、歩道に紙くずと空き缶が埋まっている。アスファルトが見えないほど裸の女性の写真が散乱していると、歩く道5メートルおきには五人から八人の中年の初老や男性が座って、通る人に頭を下げていると、頭には白いものがあつたようですが、全財産を失い、自国へ帰れず、物乞いをしている様子だ。

これは、ご存じだとは思いますが、「朝の散歩道」ということで出ているんですけど、市長さん自身が、このラスベガスとか、シンガポールに、カジノの現場を見たことがあるんでしょうか。

それから、苫小牧の人口は、今、17万人で、これを幾らにしたら市民が幸せになる。大阪でも言っています。ばくちだからやめてくださいということなんですけどね。ぜひ、このまちは、ばくちでまちが繁栄すると将来の希望というのはちょっと大変なことじゃないかと。苫小牧はこういう賭博をやらないという話ですけど、ちょっと止めていただきたいと思っています。

以上です。

○司会 IRについて、市長、お願いします。

◎市長 はっきりしているのは、ラスベガスモデルとか、あるいはアジアというマカオホテルとは、全然、統合型リゾート、IRのモデルが全然違う。

今、シンガポールの話をしました。シンガポールに二つのIRがあります。セントーサとマリーナベイサンズ、セントーサに行くと、本当に子供たちがたくさんいて、家族連れが来て、どこにカジノスペースがあるかなかなか分からない。それよりは、例えばエンターテインメントとかショッピングとか、あるいはいろんな会議、MICE機能と言っていますが、そういったことで皆さん利用されている。しかも、日本は法律で、入るときに、カジノに入るときに相当なお金を払わないと入れないという法律で、今、大阪もそうですが、進められています。

北海道のお金持ちが大阪のIRに行くことはあるかもしれないし、本州のお金持ちが北海道のIRに来ることがあるかもしれないけれども、私自身は、それよりは、やはり今どんどん人口が減少して税収が減っている。市民の皆さんからいろんな要望があっても、今はまだできる範囲ですけれども、だんだんできなくなっていく、そういうときに、税収をいかに増やすか、あるいは税外収入をいかに増やすか、もう既に苫小牧市では、七、八年前から取り組んでいることでありますけれども、やっぱり食べていけるまちをつくっていくために、やっぱり税収を増やすということを考えなければならないという背景の中で、どうもやっぱりラスベガスモデル、ギャンブルみたいなイメージが非常に強いですが、IRのビジネスモデルは全く違うということを知っていただきたいと思います。

苫小牧市民でもシンガポールに行かれた方はいらっしゃると思いますが、実際に体験していただければ、ラスベガスのようなモデルとは全然違うということがご理解いただけるかというふうに思います。

もう一つは、やっぱり北海道は一次産業と観光というふうに言っています。しかし、今回、ラピダスの先端半導体の工場設置がもう既に始まっていますけれども、やっぱり観光ということ、世界の人たちが、世界の富裕層が北海道に来たときに、やはりあのような統合型リゾートというモデルのスペースがあると、これは非常に喜んでいただけるわけですので、そうした北海道の近未来に向けた歩みを考えたときに、やっぱり景色がいいとか食べ物がおいしいだけで、どのぐらいリピーターを生むかというのは、私自身は疑問を持っておりまして、MICE機能があって、世界からいろんな学会とか会合があって、IRをベースにして道内を周遊していただく、観光していただくという人の流れもつくっていければいいなというふうに思っています。

ただ、苫小牧市が申請する権利はありません。都道府県と政令指定都市しか日本の法律では申請できない法律になっておりますので、今、鈴木知事の判断を待っているところでありまして、そうした、私もシンガポールは3回ぐらい行って、見ていますし、新しいそういうビジネスモデルというものに対して、実際に体感をしてきておりますので、市民の皆さんにご迷惑をかけることがない。

最後になります。それでも、日本は公営ギャンブルがあったりパチンコもあったりして、既に今現在そういうことがあるわけでありまして。私は、悩める人をつくらないというためにも、今回、

IRを造るに当たって、新しい法律ができて、ギャンブル依存症に対する対応とか、あるいは入場するときに8,000円とか1万円を払わないと中に入れないという法律があるわけでありまして、そんなに、ギャンブルのためのリピーターは、この施設は生むことはないというふうには思って、お金持ちの方でしょっちゅう行かれる方はいるかもしれないけど、一般市民ということを考えれば、それよりもエンターテインメントとかショッピングとか、今まで東京に行かなければ見られないようなことが、すぐ近くで見られたり、いろんな会議あるいは学会等々で、世界から大勢の皆さんが会っていただく、そして、北海道を周遊していただく拠点として、統合型リゾートを考えていますので、そこはぜひご理解をいただきたいと思いますが、もう今は、北海道では、北海道知事が行くぞと言わない限り、これはできない話でありますので、そのことも知っておいていただきたいと思います。

○司会 次の方、挙手をお願いいたします。

少々お待ちください。今、マイクをお持ちします。

◆市民 川沿町の・・・といいます。

市長さんに直接お伺いする機会はないので、今、ちらっとおっしゃってましたラピダスのことでちょっとお願いというか、不安なことがあるので聞いていただきたいと思います。

もう着工ですよ。それで、それが実現すれば、本当に苫小牧の活性化につながるということだと思います。港も、港湾だとか、苫東開発のほうにもいろんな企業が手を挙げているということを知って、雇用も生まれるし、そういうプラスの面はもうすごく歓迎します。

でも、その建てている場所に私は行って見たんですよ、建てる場所。私、実は野鳥の会の会員で、ラピダスの建設予定地の前に大学がありますね、科学技術大学と、その大学を挟んだそのすぐ横に千歳湖という沼があります。実は、その千歳湖というのは、川が出ていまして、美々川の主流につながっているんです。ウトナイ湖に結局は行くということなんですけど。

昔、野鳥の会の支部長さんが言っていたんですけど、これもウトナイの源流群の一つで、たくさん源流はあると思うんですけど、この千歳湖からもウトナイに水が流れてくる大事なところなんだよというお話を昔聞いたんです。行ってみたら、本当に大学を挟んで、もうすぐそばなんですよね。

それで、いざというときの、例えば大地震だとか何か来たときに、この有機フッ素化合物ですか、発がん性のある、沖縄なんかでは問題になっていますよね、米軍基地の泡の何か消火剤みたいな、含まれていて、それが水を汚染してがんになっている人が出ているということで。

ですから、万が一なんですけど、多分いろいろ手だてはすると思うんですけど、非常事態のときに、人体に有害なフッ素化合物が漏れ出たり地下水に入ったり、そういうことがゼロパーセントではないと思うんです。

もう、物すごく大量の水を使うということで、それも何か苫東のほうから引いてくるということで、地下水が沈下するとか、そういう心配はないというふうに伺っていますが、そういうところの歯止めですね、苫小牧はサンクチュアリ等を抱えていますから、ウトナイの。

ですから、そういうところを今まで市のほうもすごく一生懸命保全を頑張っていて、ウトナイも大

変な、保ってきていると思うんです。上流部のほうで、そういう心配なことが、私は心配なんですよね。万が一、地下水がおかしくなったり、汚染水が川に流れ込んだり。

ですから、それを市長さんに、ぜひ、これからの取組で、今、環境影響調査とかをしていると思うんですけど、そういうための手だてというか、歯止めというか、そういうものが、市民が安心するような手だてをぜひ取っていただきたいということで、よろしく願いいたします。

◎市長 ラピダス、9月1日に起工式がありまして、今、もう既に着工しています。環境問題についても、準備段階で、千歳市が中心となっていていろいろな経過がありました。もちろん、苫小牧市としても隣接のまちでありますので、環境問題については十分、これからも、水の問題も含めて、しっかりと考え対応していきたいというふうに思います。

しかし、やはり日本経済、日本のこれからを考えたときに、ラピダスが2ナノの先端半導体をつくるというのは、非常に日本経済あるいは国民生活のこれからにとって大変重要なことだと思います。

私が政治の世界に入ったのは2000年でした。あの当時、もう韓国のサムソンとか、いろんな会社が当時日本を追っかけて来ていましたけれど、いや、岩倉さん、大丈夫だと、チップを持っているから、日本は大丈夫だと言っていたのが、あつという間に抜かれてしまいました。半導体の当初は、日本がイニシアティブを取っていたんですけども、もう本当にあつという間に抜かれてしまいました。

ですから、残念なのは、今回も、アメリカのIBMから技術指導、技術意見を受けて、2ナノのこの半導体をつくろうとしているわけではありますが、日本が先端の半導体をつくるということの意味、意義、国民生活あるいは日本経済のこれからを考えたときに、半導体というのは、例えば自動車とか生活の周りも、スマホも含めてたくさんあるんですが、半導体が手に入らないから、新車を買っても3年先になるとか、そういうのがここ四、五年、随分あったんですが、やはり日本がこれからも、国民がしっかりとした職、雇用に就いて頑張っていくためには必要なことでありますし、秋口、遅い秋になると思いますが、ビッグデータセンターの誘致も、我々3年ぐらい前からずっとやっているわけでありまして、そうした北海道に先端半導体あるいはデータセンター、その後に海底ケーブルの話もあるんですが、そういう拠点形成ができることによって、北海道に対するイメージを変えていきたいと。それがやっぱりこれから生まれてくる新たな道民、あるいは市民のためになる。

例えば、雇用の面でも、苫小牧高専の卒業生の約7割強は本州に職場を求めて、今行っているんです。北海道に四つの高専がありますけれども、ほかの高専もそうであります。そこで、国のほうで、文科省のほうで、もう既に苫小牧高専でもう半導体のカリキュラムをつくるということで、既に準備が始まっていますけれども、高専に行っている生徒たちは、みんなどさんこですけども、そういった彼らが今まで北海道にはチャレンジしようと思ってもいなかった会社が、半導体の会社とかデータセンターの拠点とか、そういうところに、一人でも道内にとどまって、生まれた土地で頑張ってもらいたいなというようなこともあって、私自身は、苫小牧として、何かあった場合にラピダスの件については、協力できることはしっかり協力したいという考え方で、

今いるところです。

ただ、そのことによる環境汚染とか、そういったことがあった場合には、これは北海道もそうではありますが、しっかりとできるだけ生き物に対する影響が出ないように、しっかり取り組んでいきたいと思っています。

○司会 よろしいでしょうか。

それでは、次の方、お待ちください、今、マイクをお持ちします。

◆市民 柏木町の・・・と申します。発言の機会をいただきありがとうございます。私は子供が三人いるんですけれど、子供の室内の遊び場についてちょっとご意見させてください。

伊達市で、体育の授業の後に熱中症で亡くなったという子供もいるという事件を見まして、とても心配になりました。学校から帰ってきて、この夏は暑かったんですけど、子供は外で遊びたいということで、遊びに行き、熱中症で倒れないように冷たいお水を持たせたり、いろいろ対策をして遊びに行かせたんですけど、やっぱり帰ってきたときの体温がすごく熱かったんですよ。

それがすごく心配だったんですけど、柏木町も川沿町も、この校区はコミュニティセンターもなく、児童センターもなく、川沿体育館はあるんですけど、子供の遊び場として開放されているわけではないんですね。

なので、もしできれば、室内で子供たちが遊べる環境というところが整うと、安心して遊びに行かせる保護者が増えるのではないかなというふうに思っています。ご検討よろしく願います。

○司会 副市長、お願いします。

◎副市長 どうも貴重なご意見をありがとうございます。

子供の室内の遊び場の要望は、以前からあります。新しい施設、例えばウトナイの道の駅の展望台ですとか、いろいろと小さいなりに遊び場というところを設置、何とかしようということで整備は少しずつ進めているところであります。

なかなか地域によっては、ここの地域のように近くにないというところがあるとは思いますが、何とか、例えば、皆さんが駅前ですとか、東西に長いまちですから、いろんなところからこのまち側に来て、子供さんたちが何かもっと大きな、今、遊べる施設、冬でも安心して遊べる施設ができないかということも含めて、いろいろと私たちも考えを巡らせているところであります。

なかなかすぐ実現するかどうかというところは、申し訳ないですけど、今申し上げられませんが、やはりそういう皆さんの要望に少しでも応えることができるように、私たちもしっかり検討、協議はしてまいりたいと思いますので、ご理解をいただきたいと思います。

◆市民 ありがとうございます。

○司会 よろしいでしょうか。

次の方、挙手をお願いしたいと思います。

いらっしゃいませんか。先ほど、お話し足りなかった方も、2回目、ありますでしょうか。

◆市民 なら、いいですか。

○司会 はい。

◆市民 あまり声は小さいほうじゃないですから。いいですか、すみません。

私ですね、実は、市役所の窓口 13 番をよく利用するんですけど、あの中を歩けないんですよ。なぜかと言ったら、凸凹がないんです。だから、ソファーにぶつかるとか、人にぶつかるとか、すごく気になって、目が見えないからおっかないんです。隣の警察署は、周り全部に黄色い凸凹をつけました。市役所は外に少しある、中に何もないんです。だから、私は中が歩けない。そういうのを、管理者の方がちょっと暇なときにちょこちょこっつけるだけでいいんですよ。それがあれば、私も目が悪くなって、初めて分かったんです。それが一つ。

それから、次に、私、自分で健康管理をしたいと思って、体重計だとか、そういうのも見えません。そうすると、音声で教えてくれるのがカタログに載っているんです。ところが、私では駄目だというんだ。なぜかって言ったら、奥さんがいるから駄目だと。だけど、自分の体重だとか血圧だとかは、そういうのは自分で測りたいですよ、それで健康管理を自分でやりたい。それも、市役所の中でもって、上のほうでもって、そういうのは出さないことになっていると、窓口の女の人下を向いて黙っているんですよ、もう窓口の人はすごく不親切です。私、初めて分かりました。

図書館の、あそこでは、多分パートだと思うんですけど、女の人、すごく親切です。もう床に手をつけてありがとうございますと言いたくなるくらい働いていますよ、それはいいんですよ。

だけど、そんなところで差別しないでもらいたいんですね。私は自分で体重を測ったり血圧を測ったり、体温を測ったりするのを自分で音声で聞かなきゃできないんです。やっぱり、奥さんは自分でいろんなことをして忙しいじゃないですか。それに、何か頼むのは、やっぱり目の悪い人はそう簡単に頼めないですよ。どのぐらいのお金がかかるかは分かりません。ほんの少しでもいいから、そういうのに普通は出してもらいたいなと思います。

図書館とかは、私たちだけでなく、年を取ったら老眼になって目が見えなくなるんですよ。私はテレビも映画も新聞も、何も見えなくなりました。図書館に行って、全国にネットで流してもらうんですね、いろんなものを、そこから送ってくるんですよ。無料なんですよ、郵便というのはね。それが今やれるんですけど、残念ながら、この機械なんかはたったの 2 台です。平成 14 年だね、買ったのは、2 台。

私、これは 8 万円するんですけどね、それは娘が全部出してくれたんです。それで私は喜んで見ているから、そういうものは、皆さんだって必ず要るようになる。それから、突然目が見えなくなる人だっているんですよ。

それから、あとは信号機です。私は絶対横断歩道しか渡りません、それも信号機のあるところ。そういうことは、すごく、少しずつですけど、警察のやる仕事かもしれないけども、できるだけ少しずつでもいいからやっていってもらいたいなという具合にやっぱり思うんですね。ぴこぴこだと、信号機は鳴りますよね、あれすらやっぱりないでしょう、苫小牧は。

それから、今みたいに、海外に行ったときにそういうのがあるんですけど、ガイドがイヤホン

通して受信してしゃべるんですね。だから、「ここは市役所前ですよ。」とかね、「ここは警察署の前ですよ。」とか言う、そこだけ聞こえるように何とかして、そういうものを出してくれたら非常にいいんじゃないかなと。

それから、歩くの、先ほど誰か言っていましたが、歩くのはすごくいいことなんです。だから、その歩くの、歩数計でコンテストをやったり、横浜市みたいなのがありますよね、横浜ですね。あそこで歩行を、年間で何歩歩いたかと、商品を何かくれというんじゃないなくて、年寄りなんかそうやってやったら喜んで、遊びながら健康維持ができるんじゃないかなというようなことは思います。以上でございます。

それから、もう一つ、すみません。今、ラピダスの話をしましたね。市長、もっともっと頑張れると思うんですよ。ただ、北海道全体の知事がいなきゃ駄目だけれども、ここの市長というのは18万、十何万ですから、そしたら、周りの人は地方を全部市長がまとめるようなことをやっても私はいいと思うんです。

今の科学、これだけ進んでいたら、排水問題だとか、それから水道の水をここから送ってやるとか、足りなくなれば、周りの市町村から送ってやるとか、そういうことをやっても10年、20年先なんです半導体は。今、8層を出しているんですね、私が使ったのは1層です。8層です基盤が、そこまで来ているということにびっくりした。

だけど、大事なことは、ある会社でもって、その基盤を中に入れる絶縁の膜なんかは日本ではないというんです。100%、世界中で全部やる。日本でしかつくっていないんだと。そういう先のことを考えて、そして、パワー半導体の似たようなものをつくって、車にどんどん利用していく。市のバスだとか、そういうのを、全国的にいうと一つのまちか、二つのまちでしかやっていませんので、どんどんそういうのを言って、駄目なら駄目でもいいじゃないですか。もうそういうところは、市長の考えで、どんどん政府に要求していったり、まちを、北海道全体をまとめていくようなことを、私は市長さんにやってもらいたいなと、こういう具合に思うんですけど、以上です。

◎市長 まず、市役所に来たときに、外は、これは10年以上前、議会で指摘がありまして、外側の点字ブロックは完全にできています。どの玄関も。中に入ったときに、今、総合受付があって、それから、窓口があるところが、二つの机あるんですが、あそこに二人ずつコンシェルジュとっているんですが、案内をするスタッフがいます。

ですから、中に入ったときに、全部で、だから、総合受付を入ると六人いますので、ちょっと声かけてもらって、案内してもらおう人はいないかといったら、必ずサポートしますから。

◆市民 そこまで行けないんですよ。

◎市長 そこまで。玄関に入ってすぐのところではあるんですよ。

◆市民 見えないと分からない。

◎市長 そういう案内してもらえる人はいますので。

◆市民 分かりました。ありがとうございます。確かに、いるようですね。

◎市長 お年寄りが来ても、例えば1階だけじゃなくて、ここはどこなのと言ったら、その人たちがそ

こまで案内してくれていますので。

◆市民 はい、それは知っています。

◎市長 ぜひ、近くにいる人に聞いて、そこまで案内のところまで連れていってくれと言って、どんどん活用していただければと思います。

◆市民 分かりました。

◎市長 あと、図書館の話も、ちょっと今日、担当がいませんが、そういう方たちが来たときに、どのぐらいの対応が、機械もそうですし、人もそうですし、そういうコーナーがどうなっているか、自分でちょっと見て足りないなというふうに思ったら、あそこは今、指定管理者が運営していますので、市のほう、施設は市の施設でありますので、そこを指示したいと思います。ちょっと僕も実態が全く分かっていなかったなので、実態を確認してから。

◆市民 働いている人はすごく親切です。もう褒めてやってください。本当に、もうびっくりします。それはいいですけど、私がやることはあとは何もないですけども、そういう高齢者や何かが行っても、あそこに入って、そういうの、本を読んだり、そういうことができれば、すごく楽しくなって、皆さん、閉じ籠もらないで、外に出るんじゃないかと。

◎市長 分かりました。ちょっとチェックさせてください。

◆市民 はい。よろしくお願いします。

○司会 その他、いらっしゃいますか。
後ろの方。

◆市民 宮の森の・・・です。

除排雪、これから雪の時期になりますけど、札幌なんか、いろんなところでも、そんな費用がないということがまず第1番目の前提に来るんだとは思っています。

ただ、高齢化も進んで、僕はもともと出身が函館で、子供の頃から雪が多かったですから、隣近所も含めて、お互いに除雪をし合うだとかなんとかという習慣があったので、苫小牧に住むようになってから、積雪量が増えてきても、今のところ、何とかかんとか、自分のうちの周りから隣近所のやれるところまでね、やってはいるんです。

だけど、やっぱり、だんだん重くなってきて、積み上げる量も多くなってきて、捨てる場所がなくなると、やっぱり排雪して、1回たまったものをきれいにどこかへ捨ててもらわないと、もう積み上げるのは大変になってくる。

僕も高齢化で、やっぱり腰痛持ちで、やれば二、三日、もう腰痛いというような状況になるわけで、それでもできるだけ積もらせないで、路面には、とにかく苫小牧は危ないですから、自分の家の前、近所はできるだけお互いに助け合っているんだけど、その助け合いも高齢化で、近所の人たちもだんだん駄目になると。自分自身で考えて、いや、もうこの二、三年、両隣を考えたら、もう我が家が何とかあと何年間か頑張る前に亡くなっているのかなというような状態なんです。

それで、市にしても、道にしても予算という点ではなかなか限度もあるということになると、例えば、国に、もっとそこの降雪、除雪、排雪の予算をやっぱりつけさせるとか、恐らく要望は

しているんだと思うんですけども、災害にあったようなときにだけ、災害救助みたいな格好でやったとしても仕方がないので、やっぱり日常的にある程度安全な状況にしておかないと、救急車が入れない、消防車が入れないとかということも含めて、やっぱり大変になると思うんですよ。ぜひ、国に対しても、そういう要望を強めていただきたい。

それから、今のところ、腰が痛いけども、個人的な要望とか意見を書きましたけども、例えば、最近、だんだんいいものが出てきているだろうと、ロボットスーツというやつですね、作業しやすくなるというやつ。

例えば、ああいうものを高齢の家庭に貸し付けてくれるような何か対策を立ててもらうとか、そういう中でお互い協力し合う。やっぱり自分たちもやれることはやらないと駄目な部分がありますからね、だから、そういうことも含めて、何かいい知恵を、ぜひ市長のほうで出していただければなというふうに思います。

○司会 まず、除排雪、除雪、排雪の関係ですね。お願いします。

◎維持課道路管理主幹 除雪を担当しております維持課の菅野といいます。よろしく願いいたします。

今、おっしゃられた除雪の関係だったんですけども、基本的には苫小牧市はかき分け除雪といまして、降雪があったときにはかき分けていくという除雪を行っております。これは雪国のほとんどが同じ除雪方法でありまして。ただ、おっしゃられた、雪が多くなって、雪を積み上げる場所がなくなる。こういった場合には、雪の多い札幌とかは計画的に除排雪を行ったりしてはいますけども、幸い、苫小牧市内はそこまで一気に降ることはないので、かき分けて、何回かかき分けていったときに、例えば公園の角に雪が積もったり、高く積もったり、お家の間口の横に積もって、もう次の雪を置く場所がない。こういう場合は、一時的にその雪山を崩したり、その雪山を一部持って行って、雪捨場のほうに排雪ということを行っております。実際に。

計画全部をやるというのは、なかなか、おっしゃられたように予算もありますし、なかなかそこは実現できないんですけども、そうやって救急車が入るのが困難だとか、そういう場合に、そういうものをちゃんと実際にパトロールを行いまして、あと、要望もかなりございます。

そういった場合には、必ず職員が赴いて、これ以上、次の雪が降った場合に置く場所がない、そういう場合には雪山を削り落とす。そういうような作業を行いますので、もし、そういうお気づきの場所があれば、私たちも見ますけども、お電話をいただければ、職員が向かって、雪山を削ったり、雪山を持っていったり、こういう作業を行いますので、どうぞお気軽にお電話をいただければと思います。

○司会 よろしいでしょうか。

◎市長 今時期から、まちかどミーティングで必ず出てくるのが除雪の問題です。例えば、札幌から来られた方は分かっていると思いますが、札幌なんかの生活道路は、町内会の皆さんがお金を出して、業者と契約してやっているという、雪の多いところは大体そういうところが多いんですが、苫小牧は雪が少ないので、全部、市道については100%市のほうでやっている。

そうすると、苫小牧は、市道だけで1,000キロメートル以上あるんですね、細長いので。あまり気がつかないかも分かりませんが、ですけど、実際に業者さんを、シーズン前に除雪会議とい

うようなものを作って、市民からいただいた声を伝えて、できるだけそういう不便がないようにしているんですけども、どうしても究極的な、おとしはすごく雪が多かったじゃないですか。あのときのまちかどミーティングでいろんな意見が出たので、今年は雪を降らせませんからと言ったら、本当に去年少なかったんですよ。

ですから、多少は、そして、苫小牧はやっぱ雪が少ないので、オペレーターが稼げないので、最近はみんな空知に行って、冬場に稼いでくるんですね。ですから、熟練したオペレーターがやっぱり手薄になるということもあります。雪の少ない苫小牧ならではの悩みなんですけれども、もちろん出勤しなくてもお金は払っているんですけど、業者さんが満足いくようなお金は無理なので、そういう雪の少ないまちなりの悩みもありますけれども、今年、雪を少なくします。そう答えるしかないですよ、除雪の話は。雪を降らせないでよ。

○司会 そろそろ終了の時間が近づいてまいりましたが、その他、いらっしゃいますか。

それでは、ここで意見交換を終了させていただきます。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たりまして、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 それでは、お時間をいただき、テーマプレゼンテーションを聞いていただき、そして、今、重要なお意見をいただきまして、ありがとうございました。

実は、今年のまちかどミーティングで、最初からスーツを脱がずにやったのが、今日が初めてでありました。今まで暑くて、暑くて、上着を脱いでやっていたんですが、もうだんだん10月はまだ気温が日中は高い日が続くと言われていますが、朝晩の寒暖の差が激しい時期でありますので、ぜひ体調に気をつけられて、お過ごしをいただければなというふうに思います。

今日いただいた意見で、すぐできることはすぐやるし、できないことは時間をいただくこともあろうかと思いますが、こうして直接声を届けていただくということは非常に重要なことでありますので、これからも何か気がついたことがあったら、町内会長さんとか、今日、市議の方もいらっしゃいますが、どんどん声を届けて、できることはすぐやりますので、引き続き、何かあったら声を届けていただきますように、心からお願いを申し上げまして、ご挨拶に代えさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

○司会 それでは、以上をもちましてまちかどミーティングを閉会いたします。本日は、誠にありがとうございました。